

平成 30 年 6 月 20 日現在

機関番号：24602

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2017

課題番号：15K01957

研究課題名(和文)ギリシャにおける伝統的集落の保存・再生事業と「強い」観光地形成の政策研究

研究課題名(英文) A Study of Tourism Policy on the Conservation and Restoration Program of Traditional Settlements, and on the Robust Tourist Destination Planning in Greece

研究代表者

石本 東生 (Ishimoto, Tohsei)

奈良県立大学・地域創造学部・准教授

研究者番号：00713231

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、ギリシャ全土における「伝統的集落法」および「文化財保護法」の制度的構成の解明、加えて、キクラデス諸島やサントリーニ島に関わる「伝統的集落保護法」の大統領令や大臣令を日本語に翻訳し、その特徴を分析、且つ実際には現地でどのように運用されているのかを調査した。特に、サントリーニ島イア地区の伝統的集落は、1976～92年の間、ギリシャ観光省ギリシャ政府観光局のプロジェクトによって修復・再生された観光地で、今や世界屈指のアイランドリゾート地である。しかし、その再生プロジェクト以前は、まさに荒れ廃れた廃墟であった。その地が、どのような観光政策により蘇生し、強い観光地となったのかを考察した。

研究成果の概要(英文)：In this research, we clarified the institutional and structure of the "traditional settlements law" and "cultural property protection law" in Greece. In addition, the Presidential Decrees of "traditional settlements protection act" related to the Cyclades and Santorini Islands and the relative Ministerial Orders were translated into Japanese. Through that, we analyzed their characteristics, also furthermore, investigated in practice how it is being operated on the above sites.

In particular, the traditional settlements in the Oia district of Santorini island is a tourist destination restored and rebuilt by the project of the Greek National Tourism Organisation of Greece Ministry of Tourism, during 1976-92. So that now it has become the world's best island resort. But before this restoration project it was exactly ruined village. We examined what kind of tourism policy resuscitated the land in order to become such a robust tourist destination.

研究分野：観光まちづくり

キーワード：ギリシャ エーゲ海 伝統的集落 保存・再生事業 観光地 観光政策 サントリーニ イア

1. 研究開始当初の背景

ユーロ圏よりギリシャが離脱するという最悪のシナリオが現実となるかに見えた2012年夏には、世界中のメディアがギリシャをバッシングするあまり、同国の観光産業はインバウンド観光客の減少により大打撃を蒙った。しかし、翌2013年には前年比18%以上の増加を見せ、2千10万人を超える外国人観光客の入込を記録した。さらに、2014年シーズンも昨年の増加率に迫る勢いで、ギリシャの観光史上最多記録を更新する見込みと言われていた。実に、当時の日本へのインバウンド観光客入込数の倍以上である。そしてこの牽引役となったのが、サントリーニ島、ミコノス島、クレタ島をはじめとする南エーゲ海のデスティネーションであった。

申請者は2010年年頭に「ギリシャ経済危機」が表面化して以来、欧州でも有数の観光国であるギリシャの動静に注視しつつ、研究を続けてきた(石本:2011, 2012, 2013a,b, 2014a,b,c)。特に上記3島の観光地における共通点は「中世・近代の伝統的集落が再生され、観光資源化されている」ことである。中でも、サントリーニ島において最も人気を博す「イア地区」は1950~75年頃、深刻な過疎に悩む荒れ廃れた街であったが、1976~92年の期間にGNTOの「伝統的集落再生プロジェクト」により奇跡的な復活を遂げた。

同事業では、約60件の伝統的家屋が修復・復元されており、総計200におよぶベッド数のゲストハウス群に転用され、その後の経営は順次民間へ移譲された。さらに、街のメインストリートが大理石で舗装されるなどの工事も伴った。(公式報告書: Preservation & Development of Traditional Settlements (1975- 1992) Cultural Heritage Showcase, The G.N.T.O Programme, Greek National Tourism Organisation, Athens 2009, 全302頁)

実に、このGNTOプロジェクトがなければ今日のサントリーニはないと言っても過言ではない。また、同じ時期にギリシャ国内15か所で行われた同種の国家事業は、地域の貴重な文化遺産を修復・再生し、新たな観光デスティネーションとして再建させた点で、特筆すべきである。ヒオス島メスタの城塞都市も、1950~80年にかけて過疎によりゴーストタウン化していたが、今や見事に再生した。

2. 研究の目的

2010年以降経済危機に直面し、観光業も打撃を受けるギリシャにおいて、南エーゲ海のサントリーニ島やミコノス島、クレタ島をはじめとする観光地は「強い観光力」を維持。それらの観光地に共通する特徴は、サントリーニ島イア地区に代表されるような「伝統的集落再生型」の観光まちづくりが成功している点である。

本研究では、そのサントリーニ島イア地区をはじめ、1976年から92年までに全国16か所において行われたギリシャ政府観光局(Greek National Tourism Organisation, 以下GNTO)主導の伝統的集落再生事業に焦点を当て、年間2千万人を超える外国人観光客誘客を達成している同国の観光政策全般を歴史的に捉え、欧州有数の観光立国の姿を明らかにする。

3. 研究の方法

A) 景観保護の法制度調査・分析:

ギリシャの伝統的集落における景観保護法の歴史的進展を概観し、整理する。資料としてはギリシャの法文書原典(政府官報FEK, 大統領令Proedriko Diatagma etc.)、文化省公式サイト「考古学遺跡・記念物カタログ」および、環境・エネルギー・気候変動省の「伝統的集落・保温物件アーカイブ」を中心に利用する。

具体的には、関連法令の必要部分をすべて日本語に訳し、伝統的集落保存と利活用、用途地域の制限等について、その特徴を把握する。且つG. Pozoukidou, M. Papageorgiou, D. Gavala, I. Aisoposなど、ギリシャ国内の都市計画、建築分野の研究者による同分野の先行研究も精査する。

その結果を踏まえて、ギリシャ現地を訪れ、実際の運用について調査する。その際は、当該伝統的集落の保存管理を所管する建築・都市計画局などの行政機関や、大学の研究者などにも調査協力を仰ぐ。

最終的には、現地で得た調査データを整理して、伝統的集落再生型の強い観光地形成に関する観光政策の特徴を明らかにする。

B) GNTOプロジェクト調査:

一方、「伝統的集落保存」という文化財保護の見地からは、通常、国の「文化省」に当たる機関が行うべき「伝統的集落の修復・再生事業」を、同プロジェクトでは「観光省 政府観光局」が主導し、その地の文化形態を損なうことなく観光地開発を行った事例は、世界的にもまさに希少である。そのプロジェクトにおける成功例且つ失敗例をも含めて可能な限り明らかにすることである。

しかしながら、プロジェクト実施地はギリシャ全土で大小16箇所にも及ぶため、中でも最も大規模に行われたサントリーニ島イア地区、ヒオス島メスタの中世城塞都市の2か所に加えて、他1か所の実施事例を調査研究の対象とする。さらに同プロジェクト実施地において、終了後20年ほど経過した現在の状況、新たな問題点などを明らかにし、今後の持続可能な観光発展の姿を分析する。

4. 研究成果

本研究では「ギリシャにおける伝統的集落の保存・再生事業と『強い』観光地形成の政策研究」という課題のもと、3年間の調査研究を行った。平成29年度の研究最終年度は、

ギリシャ・エーゲ海において世界的にも屈指の観光人気を誇るサントリーニ島のイア地区が、同島内および広くエーゲ海の外島の観光地と比較しても、はるかに高品質の伝統的集落再生型の町並みを保全し、ひいては落ち着いた格調ある宿泊施設、飲食店などを擁している、その要因を精査した。

すなわち、アイランドリゾートではあるものの、唯一無二の美しい伝統的集落景観を再生・維持し、その上で営業可能な店舗業種を規制した「用途制限」の条項を設け、店舗における屋外広告物、陳列台の配置、公共空間の占用、営業による騒音公害等への対策をも規定した「1993年大統領令」(イア集落対象)の全体像を明らかにした。これは本研究における最大の成果であったと確信する。

また、29年度は、1976年から92年まで継続したギリシャ観光省ギリシャ政府観光局によるイア集落再生プロジェクトにおいて、指揮監督を行った最重要人物、ギリシャ人建築家のヴ・ラ・ボジネキ氏と出会い、十分な調査協力も得ることができた。そして、先述の1993年大統領令については、ボジネキ氏のまちづくりに対するビジョンのもと、氏自身が中心となって同大統領令の草案を作成したことも判明した。その背景には、サントリーニ・イア集落の発展を見つめつつも、その地に暮らし、幼い子供たちを育てていく一人の住民として「観光公害」を蔓延させないための必死の抵抗があったことも浮き彫りとなった。

これらの研究成果は、平成29年6月欧州の国際都市計画学会 "International Conference Changing Cities III" (ギリシャ・シロス島) にて口頭発表を行い、且つ同学会の学会誌(査読付)にも発表した。

5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計8件)

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

1. Tohsei Ishimoto, Tourism Development in the Greek Traditional Settlements of Santorini Island and the Cultural Landscape Preservation Policy, 2015, *Proceedings of the International Conference on Changing Cities II Spatial, Design, Landscape & Socio economic Dimensions*, International Conference on Changing Cities II Spatial, Design, Landscape & Socio economic Dimensions, Porto Heli, Greece, pp. 1735- 1744. (単著: 査読有り)
2. 石本東生, 2015年, 「ギリシャ共和国の『伝統的集落』における景観保護法の研究(1) - 1978年11月13日発令『伝統的集落法』について - 」, 『奈良県立大学研究季報「地域創造学研究」』第26巻1号, 奈良県立大学, pp. 23-36. (単著:

査読無し)

3. 石本東生, 2015年, 「ギリシャ共和国の『伝統的集落』における景観保護法の研究(2) - 1989年6月2日発令『キクラデス県における(改正)伝統的集落法』について - 」, 『奈良県立大学研究季報「地域創造学研究」』第26巻1号, 奈良県立大学, pp. 37-49. (単著: 査読無し)
4. 石本東生, 江口久美, 岡本祐, 2015年, 「ギリシャ・キクラデス諸島における伝統的集落保存と観光資源化『1978年法』と『1989年法』の比較考察」, 『第30回日本観光研究学会全国大会学術論文集』, 日本観光研究学会, pp. 297-300. (共著: 査読無し)
5. 石本東生, 2016年, 「ギリシャ共和国の『伝統的集落』における景観保護法の研究(3)」 - サントリーニ島イア地区における1995年法と2000年法 - , 『奈良県立大学研究季報「地域創造学研究」』第26巻4号, 奈良県立大学, pp. 55-66. (単著: 査読なし)
6. 石本東生, 2016年, 「ギリシャ共和国の『伝統的集落』における景観保護法の研究(4) - 1993年7月20日発令大統領令について - 」, 『奈良県立大学研究季報「地域創造学研究」』第27巻1号, 奈良県立大学, pp.91-107. (単著: 査読なし)
7. 石本東生, 岡村祐, 江口久美, 2016年, 「ギリシャ・サントリーニ島における伝統的集落保存法『1993年大統領令』の特徴と観光地形成の研究」, 『第31回日本観光研究学会全国大会学術論文集』, 日本観光研究学会, pp. 137-140. (共著: 査読無し)
8. Tohsei Ishimoto, Yu Okamura, Kumi Eguchi, 2017, Landscape Conservation Policy and Tourism Developments in the Traditional Settlement of Oia, Santorini Island, Greece, *Proceedings of the International Conference on Changing Cities III Spatial, Design, Landscape & Socio economic Dimensions*, International Conference on Changing Cities III Spatial, Design, Landscape & Socio economic Dimensions, Syros, Greece, pp. 1835-1846. (共著: 査読有り)

[学会発表](計4件)

1. Tohsei Ishimoto, Tourism Development in the Greek Traditional Settlements of Santorini Island and the Cultural Landscape Preservation Policy, 2015, International Conference on Changing Cities II Spatial, Design, Landscape & Socio economic Dimensions, Porto Heli, Greece.
2. 石本東生, 江口久美, 岡本祐, 2015年, 「ギリシャ・キクラデス諸島における伝

統的集落保存と観光資源化 『1978年法』と『1989年法』の比較考察』, 第30回日本観光研究学会全国大会, 於)高崎経済大学.

3. 石本東生, 岡村祐, 江口久美, 2016年, 「ギリシャ・サントリーニ島における統的集落保存法『1993年大統領令』の特徴と観光地形成の研究」, 第31回日本観光研究学会全国大会, 於)江戸川大学.
4. Tohsei Ishimoto, Yu Okamura, Kumi Eguchi, 2017, Landscape Conservation Policy and Tourism Developments in the Traditional Settlement of Oia, Santorini Island, Greece, International Conference on Changing Cities III Spatial, Design, Landscape & Socio economic Dimensions, Syros, Greece.

〔図書〕(計 件)

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
出願年月日:
国内外の別:

取得状況(計 件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
取得年月日:
国内外の別:

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

石本東生(奈良県立大学・地域創造学部)

研究者番号: 00713231

(2) 研究分担者

➤ 江口久美(九州大学・持続可能な社会のための決断科学センター)

研究者番号: 30720221

➤ 岡村祐(首都大学東京・都市環境科学研究科)

研究者番号: 60535433

(3) 連携研究者

()

研究者番号:

(4) 研究協力者

()